



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Spring 2009 Vol.10, No.2

アフガニスタン、イスラエルをめぐる情勢

アフガニスタンは決戦場

1月28日、ハルン・アミン駐日アフガニスタン大使は第44回外交円卓懇談会で「アフガニスタンにおける『テロとの闘い』の現状」について、次の通り語り、その後出席者15名と懇談した。

2001年9月11日の同時多発テロ事件から8年が経過したアフガニスタンでは、対前年比で武力衝突が30%増え、死者は8千人以上となった。事態はか



アミン駐日アフガニスタン大使 (中央)

えって悪化している。2009年年初には、カブールにあるドイツ大使館近くで自爆テロが起こり、この1年は昨年よりさらに悪化するのではないかと懸念される。オバマ政権下で米国は「テロとの闘い」の焦点をイラクからアフガニスタンに移すことを決定した。アフガニスタンは「テロとの闘い」の決戦場となりつつある。もしここで敗れば、テロリストはその活動領域を全世界に広げるであろう。

モサド前長官から見た世界情勢

2月17日、エフライム・ハレヴィ・ヘブライ大学戦略政策研究センター所長 (前モサド長官) は第46回外交円卓懇談会で「イスラエルから見た世界情勢の動向」について、次のとおり語り、その後出席者18名と懇談した。



ハレヴィ前モサド長官 (中央)

イスラエルは、物事を地域レベルだけや、まして二国間レベルだけでは見ておらず、つねに世界的視野で見ている。世界的不安定の中心は、①大量破壊兵器の拡散、②イスラム過激派のテロ、③原油価格高騰から始まった今日の世界的経済危機の3つであるが、これらはすべて中東に根を持っている。イスラエルは、中東和平の鍵を握り、またグローバル・プレーヤーとして国際社会に地歩を占めている。日本にとっても、イスラエルは良好な関係を築くメリットのある国だと思う。

世話人会、若林秀樹常任世話人を選任

新年恒例の第19回世話人会・第5回拡大世話人会が1月13日に都内のホテルで開催され、大河原良雄、豊田章一郎、茂木友三郎、谷垣禎一、島田晴雄、伊藤憲一、村上正泰の7世話人に加え、瀬谷博道、石川洋、加藤正博などの経済人メンバーが出席した。

当日は、前年度の活動報告案や収支決算案とともに、新年度の活動計画案と収支予算案が審議、承認された。審議の過程では「こういう時代だからこ



世話人会・拡大世話人会の模様

そ、米国との対話のパイプが重要だ」、「BRICs等の新興国との対話もほしい」等の貴重なご意見を頂戴した。

以上の4議案のほか、今回の世話人会では、村上正泰常任世話人に代わって新たに若林秀樹日本国際フォーラム常勤参与 (55) をグローバル・フォーラム常任世話人に選任する件が提案され、承認された。若林常任世話人は、ミシガン州立大学院を修了後、ヤマハに入社、電機連合中央執行委員、在米日本大使館一等書記官、電機総研副所長を経て、2001年から参議院議員を1期6年務めた。2008年3月から米戦略国際問題研究所 (CSIS) 客員研究員に転じ、12月25日付けで日本国際フォーラム常勤参与、主任研究員に着任した。

謝 辞

当フォーラムの諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人世話人および経済人メンバーの所属する企業の納入する賛助会費にあります。

現時点における賛助会費納入企業は、下記の12社20口です。ここに特記して謝意を表します。

[経済人世話人所属企業] [5口]

トヨタ自動車 キッコマン

[経済人メンバー所属企業] [1口]

住友電気工業 鹿島建設

新日本製鐵 東京電力 旭硝子

三菱東京UFJ銀行 日本電信電話

富士ゼロックス ビル代行

日本郵船

(入会日付順)

議論百出から

当フォーラムのホームページ (<http://www.gfj.jp>) 上の政策掲示板「議論百出」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

「テロとどう向き合っていくか？」

衆議院議員 細野 豪志

9.11テロの後のテロ特措法の議論の際、党内で激論を交わしました。「テロリスト掃討には力が必要である」、「武力ではテロはなくなる。民生支援が大事だ」。両者の主張が激しくぶつかりあい、膠着状態に陥った中で、激しい学生運動を経験してきたベテラン議員の発言が、流れをつくりました。「自分も半分テロリストになりかかった人間だからこそ言えるが、テロリストを掃討するためには、一時的に力を必要とすることがある」。社会党から来た議員の発言に、驚きました。その発言がきっかけとなって、民主党内では、アフガンのテロ勢力に対する空爆を支持する流れが出来ました。しかし、それは「一時的」なものでなければなりません。その後、イラク戦争、そしてアフガンでのテロ掃討作戦と、あまりにも長く、力に頼った政策を継続し過ぎたのではないかと考えています。時に力も必要ですが、テロが世界中に広がり、社会に根ざしたものとなっている以上、戦争を仕掛ける相手にはなり得ません。大切なのは、「テロ」を根絶することです。対米追従ではなく、わが国としてテロとどう向き合っていくのか、判断しなければならぬ時が来ています。

（2008年12月2日付投稿）

最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| 2月26日「日米首脳会談の急所は、米国債購入の密約か」(杉浦正章) | 12月19日「愛国心なしに自衛官は使命感をもてるか」(藤永剛志) |
| 2月13日「クリントン国務長官の来日を歓迎する」(大河原良雄) | 12月13日「失われた『幸福な情景』を求めて」(古屋力) |
| 2月4日「ポスト京都への日本のメッセージ」(鈴木馨祐) | 12月11日「2008年自衛隊は命を懸けて国家を守れるか?」(近藤宣昭) |
| 1月16日「イスラエル軍のガザ侵攻を止められない悲劇」(石川純一) | 12月8日「防衛省めぐる四文字熟語」(伊奈久喜) |
| 12月26日「木下氏の「炭素循環について」にコメントする」(小倉正) | 12月6日「ソマリアの海賊問題について考える」(高村晴一) |

補佐人会開催

さる12月17日に第15回補佐人会が開催され、豊田章一郎、茂木友三郎各経済人世話人によって指名された永田俊彦トヨタ自動車渉外部担当部長、仲野寿人キッコーマン経営企画室調査渉外担当部長の両補佐人によって当フォーラム2008年度収支決算案の監査が行われた。証拠書類等を精査した後、両補佐人から「適正である」と認められた。

フォーラム活動日誌 (12-2月)

- 12月1日、1月1日、2月1日『メルマガ・グローバル・フォーラム』
- 12月9日 Mykola KULINICHI 駐日ウクライナ大使、Ivane MATCHAVARIANI 駐日グルジア大使往訪 (村上正泰常任世話人)
- 12月11日 Blagovest SENDOV 駐日ブルガリア大使往訪 (村上常任世話人)
- 12月15日、1月15日、2月15日『GFJ E-Letter』
- 12月16日 Ivan MRKIC 駐日セルビア大使、Hugh RICHARDSON 駐日EC大使往訪 (村上常任世話人)
- 12月17日 Azer HUSEYN アゼルバイジャン大使往訪 (村上常任世話人)
- 12月17日 第15回補佐人会 (2頁)
- 1月13日 第19回世話人会・第5回拡大世話人会 (1頁)
- 1月28日 第44回 外交円卓懇談会 (Haron AMIN 駐日アフガニスタン大使他15名)
- 2月17日 第46回 外交円卓懇談会 (Efraim HALEVY 前モサド長官他18名)
- 2月19日 楊伯江中国現代国際関係研究院日本研究所長他3名と会食、意見交換 (伊藤憲一執行世話人他)

楊伯江中国現代国際関係研究院所長と日中関係を語る



伊藤憲一執行世話人 (中央左) と 楊伯江所長 (中央右)

グローバル・フォーラムは2007年より毎年、中国現代国際関係研究院日本研究所と「日中対話」を実施しているが、本年も6月の開催がほぼ固まった。来日した楊伯江同研究所所長、馬俊威同副所長他2名が2月19日に伊藤憲一執行世話人、若林秀樹常任世話人他2名と協議し、合意に達した。

楊所長は「世界は大きな転換期にあるが、日本は経済力、技術力、資金力、国際協力の実績があり、今ほど日本が世界の平和と繁栄、新たな秩序作りにも貢献できる時はない」と、国際社会において日本の果たす役割に強い期待を寄せ、この時期における「日中対話」開催の意義を高く評価した。